

Economic Indicators

発表日:2020年12月8日(火)

景気ウォッチャー調査(2020年11月)

～感染再拡大に伴い、景況感は現状・先行き共に悪化～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
副主任エコノミスト 小池 理人(Tel:03-5221-4573)

	景気の現状判断(方向性)(季節調整値)				景気の先行き判断(方向性)(季節調整値)			
	合計	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連	合計	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連
2019年 11	38.8	38.3	39.2	41.1	45.9	47.1	44.0	42.2
12	39.7	39.0	41.2	40.8	45.5	46.1	44.7	43.0
2020年 1	41.9	42.2	41.7	39.8	41.8	42.4	40.9	40.0
2	27.4	26.1	30.1	30.4	24.6	23.3	26.3	29.9
3	14.2	12.6	19.2	13.6	18.8	18.9	19.2	17.6
4	7.9	7.5	9.9	6.3	16.6	18.3	13.9	11.4
5	15.5	16.4	15.0	10.7	36.5	38.9	31.3	31.5
6	38.8	43.3	30.4	27.4	44.0	45.7	39.9	41.9
7	41.1	43.3	37.8	33.8	36.0	35.8	37.6	33.7
8	43.9	45.3	41.1	41.2	42.4	42.5	42.4	41.7
9	49.3	50.3	47.4	47.0	48.3	48.5	47.4	48.9
10	54.5	55.1	53.0	53.8	49.1	49.1	48.3	50.8
11	45.6	44.4	48.1	48.1	36.5	35.1	39.7	38.2

(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

○現状判断D I・先行き判断D I共に景況感が悪化

内閣府から発表された11月の景気ウォッチャー調査(季節調整値)(調査期間:11月25日～月末)では、現状判断D Iは前月差▲8.9ptと前月から悪化した。感染の再拡大が飲食・サービスを中心に景況感を悪化させている。先行き判断D Iについても、同▲12.6ptと前月から悪化した。感染拡大に伴う先行き不透明感の高まりが、先行きの景況感を悪化させている。

○現状:新型コロナウイルスの感染再拡大により、飲食・サービスを中心に大きく悪化

現状判断D I(季節調整値)の内訳をみると、家計動向関連D Iが前月差▲10.7pt、企業動向関連が同▲4.9pt、雇用関連D Iが同▲5.7ptといずれの項目も悪化した。

家計動向関連のコメントをみると、「新型コロナウイルス感染第3波の兆候が顕著になってきており、客の来店頻度、滞在時間が減ってきている(衣料品店専門店)。」や「11月に入り、新型コロナウイルス感染者数が日に日に増えており、第3波ということで厳しい状態が続いている。客が徐々に戻り始めていたのに、再び客足が遠のいている(その他レジャー施設[ボウリング場])。」など、新型コロナウイルスの感染状況の悪化が景況感を大きく悪化させていることを示すコメントが多くみられた。特に、飲食店については「新型コロナウイルス感染拡大の第3波により、客足も少ない。忘年会も早くから中止が進んでいる(高級レストラン)。」など、書き入れ時である忘年会シーズンへの影響など、厳しい状況が浮き彫りとなった。

企業動向関連については、「新型コロナウイルスの影響で、受注がほぼなくなり、悪くなっている

（窯業・土石製品製造業）。」や「新型コロナウイルスの影響で、受注量は明らかに減少している（出版・印刷・同関連産業）。」など、新型コロナウイルスの影響に伴う受注減が、企業の景況感を悪化させているようだ。とりわけ、「新型コロナウイルスの感染拡大で、飲食店への客の流れが止まり、売上が落ち込んでいるため、景気は悪くなっている（食料品製造業）。」に見られるように、飲食・サービスに対して商品を提供している業種への悪影響の波及が進んでいる。

雇用関連では、「新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、Go To Travelキャンペーンなどで少しずつ持ち直していた経済が、また悪くなっているように感じる（新聞社[求人広告]）。」や「新型コロナウイルスによる業績への影響から、人材依頼数が減っている（人材派遣会社）。」など、感染拡大が雇用関連での景況感を悪化させていることを示すコメントが多くみられた。

○先行き：感染拡大に伴う不透明感の高まりが、先行きの景況感を下押し

先行き判断D I（季節調整値）の内訳をみると、家計動向関連D Iが前月差▲14.0pt、企業動向関連D Iが同▲8.6pt、雇用関連D Iが同▲12.6ptといずれの項目も悪化した

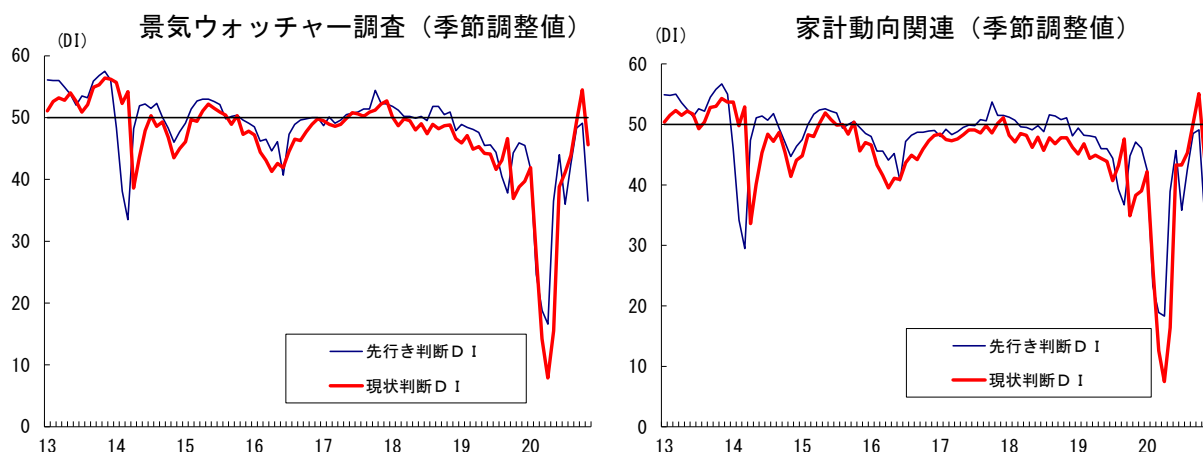
家計動向関連D Iでは、「全国的に新型コロナウイルスが感染拡大しており、来客数の減少が見込まれる（百貨店）。」や「新型コロナウイルス第3波の到来により、年始の宴会キャンセルが発生し、さらに宿泊のキャンセルも予想され、予断を許さない状況である（都市型ホテル）。」など、新型コロナウイルスの感染拡大による先行き懸念が景況感を悪化させているようだ。

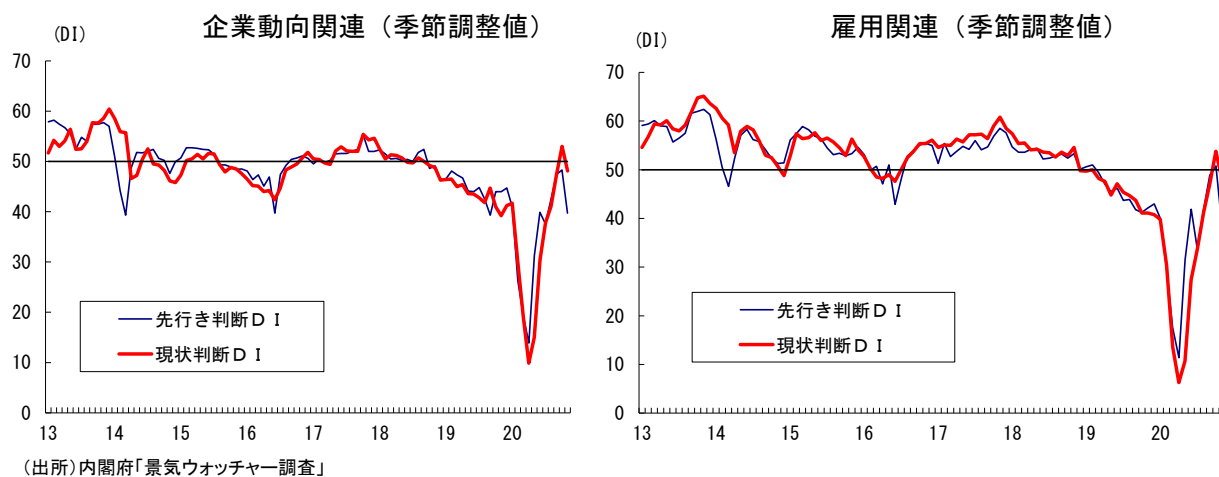
企業動向関連では、「最近、新型コロナウイルスの感染者が再び増加しており、先行きの見通しが立たなくなっている（経営コンサルタント）。」や「先行きの不透明感がより一層強くなっていると考え（建設業）。」など、感染拡大に伴う先行きの不透明感が企業の景況感を悪化させていることを示すコメントが多くみられた。

雇用関連では、「新型コロナウイルスの感染者数の急増により、徐々に復活していた接客業の求人が減り、企業も人員の見直しを図ると予測される（民間職業紹介機関）。」や「新型コロナウイルス感染者数が増加していることから、採用活動を控える恐れが考えられる（職業安定所）。」など、感染拡大に伴う雇用の抑制観測が景況感に影を落としているようだ。

○感染状況の悪化により、景況感が一段と悪化するリスクが高まっている

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、これまで改善が続いてきた景況感は大きく悪化した。特に、他地域に先駆けて感染状況が悪化した北海道においては、現状判断D I（季節調整値）で前月差▲23.9ptと全国の同▲8.9ptと比較して大幅に景況感が悪化している。冬場を迎えるにあたって感染状況が悪化するリスクはかねてより指摘されていたが、そのリスクが顕在化してきている。11月時点では比較的気候が温暖な九州・沖縄などにおいて、現状判断D I（季節調整値）が好不調の目安となる50を上回るなど粘りを見せているが、12月に入っても新規感染者数は依然として高水準で推移しており、今後気温が更に低下し、感染状況が悪化する中で、一段と景況感が悪化するリスクが高まっている。景気を占う上での感染状況の動向は、引き続き重要になるだろう。





本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

